

日本版DMO形成・確立計画

1. 日本版DMOの組織

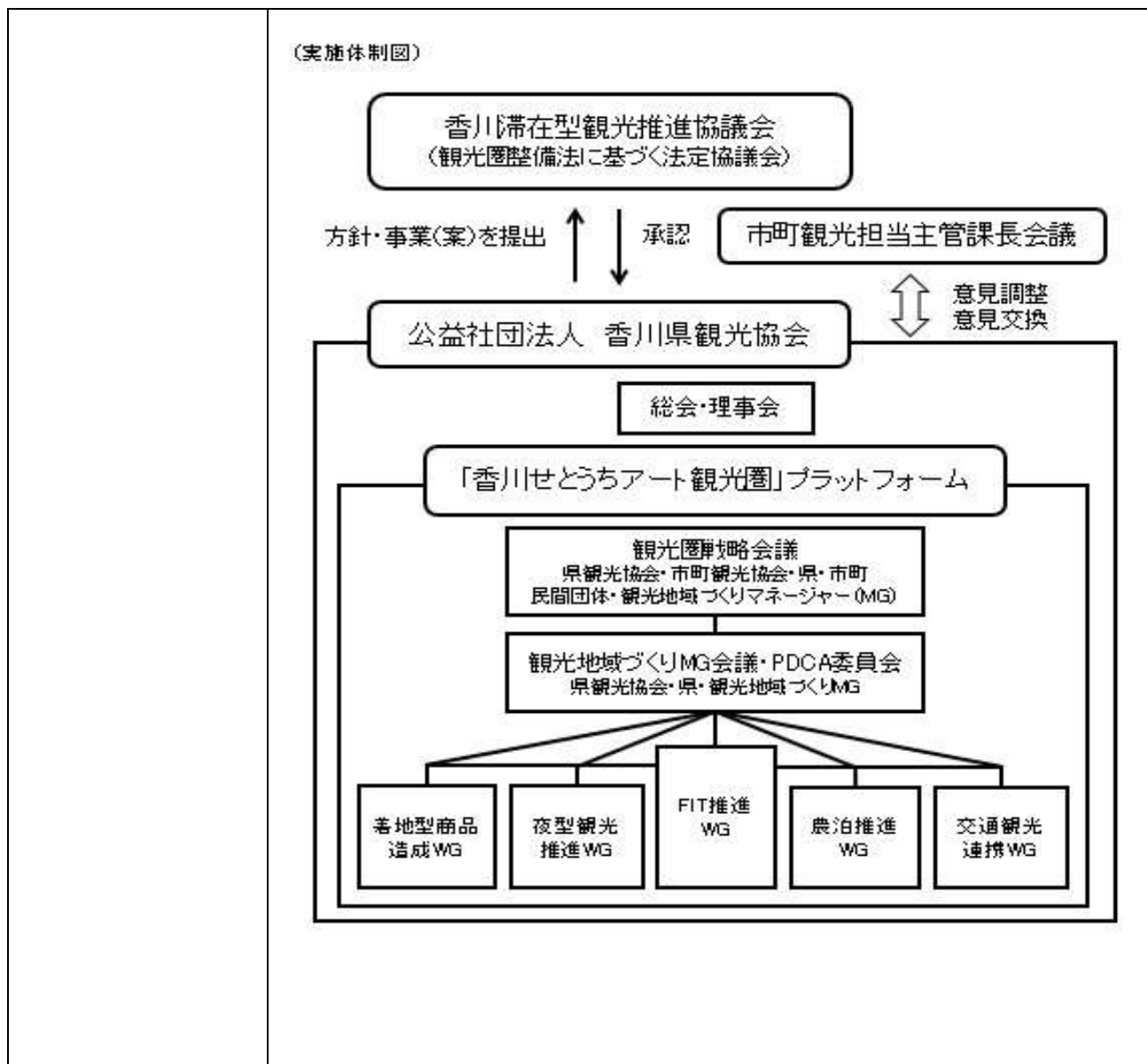
申請区分	広域連携DMO、 <u>地域連携DMO</u> 、地域DMO	
日本版DMO候補法人の名称	公益社団法人 香川県観光協会	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	香川県全域:8市9町 高松市、丸亀市、坂出市、善通寺市、観音寺市、さぬき市、東かがわ市、三豊市、土庄町、小豆島町、三木町、直島町、宇多津町、綾川町、琴平町、多度津町、まんのう町	
所在地	香川県高松市	
設立時期	昭和45年9月(平成25年4月1日付けで公益社団法人に移行)	
職員数	10人(専従役員、専従職員)	
代表者(トップ人材:法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者)	(氏名) 三矢 昌洋 (出身組織名) 香川県ホテル旅館生活衛生同業組合	香川県ホテル旅館生活衛生同業組合の理事長として、長年にわたり、本県の観光振興の牽引役として尽力してきた。平成26年5月に(公社)香川県観光協会の会長に就任し、「香川せとうちアート観光圏」や日本版DMOの整備、全県的なおもてなし運動の展開などに積極的に取り組んでいる。
各種データの分析・収集等(マーケティング)の責任者(専門人材)	(氏名) 内田 裕幸「専従」	平成30年6月に(公社)香川県観光協会の専務理事に就任。長年、香川県職員として、観光・国際交流分野での経験や人的ネットワークを活かすとともに、観光庁の観光地域づくりマネージャーとして、「香川せとうちアート観光圏」や日本版DMOの総括事業責任者(COO)としての役割を担っている。(平成30年度日本版DMOセミナー(全10回)受講)
プロモーションの責任者(専門人材)	(氏名) 加藤 敬「専従」 (出身組織名) 香川県(派遣)	平成29年4月に(公社)香川県観光協会の事務局長に就任。香川県職員として、「香川せとうちアート観光圏」整備計画の策定を担当するなど、観光分野で勤務した経験を活かし、県観光振興課等と連携を図りながら、当協会が実施するプロモーションの中心的な役割を担っている。
旅行商品の造成・販売の責任者(専門人材)	(氏名) 古川 秀紀「専従」 (出身組織名) 株式会社JTB(出向)	平成30年4月から(公社)香川県観光協会に勤務。旅行業界最大手であるJTBでの勤務経験を活かし、本県で滞在、周遊する着地型旅行商品の造成・販売の中心的な役割を担っている。
情報発信の責任者(専門人材)	(氏名) 青木 智佳「専従」	(株)高松リビング新聞社に約25年間勤務し、地域情報誌の企画・執筆・編集等に従事。平成26年7月から(公社)香川県観光協会に勤務。観光庁の観光地域づくりマネージャー。

(別添) 様式 1

<p>連携する地方公共団体の担当部署名及び役割</p>	<p>マーケティング : 香川県交流推進部交流推進課 国内プロモーション : // // 観光振興課 海外プロモーション : // // 国際観光推進室 地域公共交通 : // // 交通政策課 県産食材・県産品 : // // 県産品振興課・農政水産部各課 農泊海外発信事業 : // 農政水産部農政課 社会資本整備 : // 土木部各課 観光振興全般 : 各市町観光担当課 など</p>
<p>連携する事業者名及び役割</p>	<p>各市町観光協会(地域内の連絡調整、滞在プログラム) わがかがわ観光推進協議会(まちづくり型観光、おもてなし) てくてくさぬき推進協議会(地域内の連絡調整、まち歩き) 香川県ホテル旅館生活衛生同業組合(地域内の連絡調整) さぬき瀬戸塾(地域内の連絡調整) (一社)香川県婦人団体連絡協議会(地域内の連絡調整) 株式会社百十四銀行(地域内の連絡調整) (一社)全国旅行業協会香川県支部(旅行商品の造成) (一社)日本旅行業協会中国四国支部香川地区委員会(旅行商品の造成) (一社)かがわ県産品振興機構(県産品の開発・支援) 四国旅客鉄道株式会社(交通アクセス) 高松琴平電気鉄道株式会社(交通アクセス) 香川県旅客船協会(交通アクセス) など</p>
<p>官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>(該当する要件) ①、②、③、④ (概要) ①役員として、県下の各市町観光協会の長に加え、宿泊事業者や二次交通事業者、旅行業事業者の団体の長が就任している。 ②観光圏整備法に基づく観光圏として認定された「香川せとうちアート観光圏」のプラットフォームとしての役割を担っており、県や市町、市町観光協会、関係団体をメンバーとする観光圏戦略会議やワーキンググループを設置している。 ③観光圏整備法に基づく法定協議会として、県や市町、市町観光協会、関係団体で構成する「香川滞在型観光推進協議会」を設置している。</p>
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<p>○香川をもっと深く知り、郷土愛を育んでもらうことにより、県外からの観光客におもてなしの心で接してもらうため、香川の観光・歴史・文化・食などの様々な分野に精通した講師による県民向け講座「さぬきアカデミー」を開催している。(平成 26 年度～) ○県民に自分たちが暮らす地域の歴史や文化、背景についてより理解を深め、誇りを持ってもらうことにより、おもてなし意識の醸成につなげるため、高松や丸亀・多度津、瀬戸内の島々の歴史や文化を紹介した観光ガイドブックを作成・配布した。(平成 26～28 年度) ○県内を3つの地域に分け、それぞれ住民を巻き込んだワーキンググループを設け、観光地域づくりについて議論等を行った。(平成 26～28 年度) ○県内各地で活動している観光ガイドの資質向上を図り、プロ意識を有したガイドを育成するための研修会を開催した。(平成 28～29 年度) ○その他、観光従事者、タクシー従業員、バス従業員及び経営者のおもてなし力の向上を図るため、香川の観光の基礎知識や接客技術を学ぶおもてなし研修を開催している。(毎年度開催)</p>

(別添) 様式 1

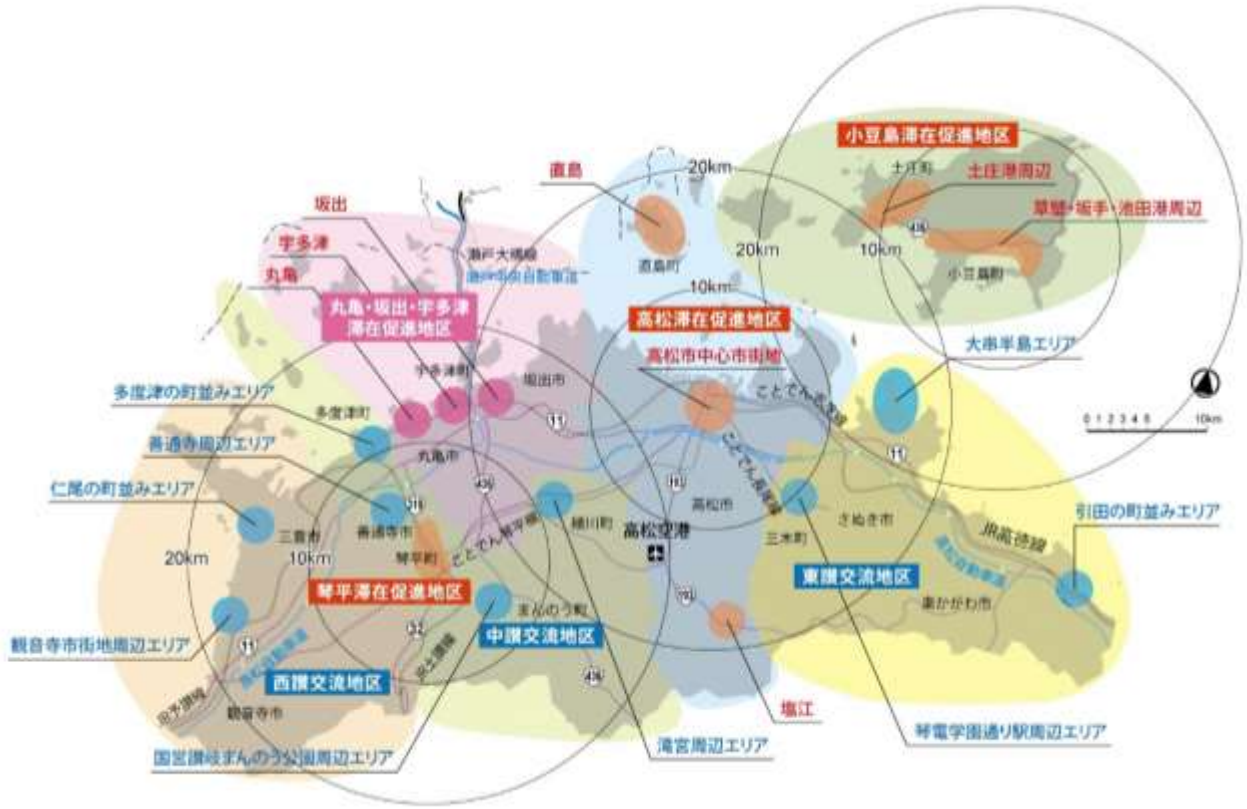
<p>法人のこれまでの活動実績</p>	<p>(活動の概要)</p> <p>○当協会は、観光事業の振興を図り、観光団体との連絡協調を行うとともに、国際観光の振興を促し、地方文化、産業の発展に寄与することを目的として、会費収入や香川県等からの補助金等により、観光客の受入態勢整備事業、観光情報発信事業、国内外からの観光客誘致事業、観光香川おもてなし推進事業などを実施している。</p> <p>○当協会は、平成 27 年 4 月に観光圏整備法に基づく観光圏として認定された「香川せとうちアート観光圏」のプラットフォームとしての役割を担っており、平成 29 年 11 月には、観光庁が日本版DMO法人(地域連携DMO)の第一陣として登録した。</p> <p>(定量的な評価)</p> <p>○県外観光客数</p> <p>H25 年:約 9,177 千人(平成に入って初の 9,000 千人超)</p> <p>H26 年:約 9,060 千人(2年連続で 9,000 千人超)</p> <p>H27 年:約 9,203 千人(2 年ぶりに増加し、3 年連続で 9,000 千人超)</p> <p>H28 年:約 9,368 千人(2 年連続で増加し、4 年連続で 9,000 千人超)</p> <p>H29 年:約 9,464 千人(3 年連続で増加し、5 年連続で 9,000 千人超)</p> <p>※出典:香川県観光客動態調査報告</p> <p>○外国人延べ宿泊者数</p> <p>H25 年:約 96 千人(対前年比 222.4%増)</p> <p>H26 年:約 143 千人(対前年比 148.9%増)</p> <p>H27 年:約 210 千人(対前年比 147.5%増)</p> <p>H28 年:約 358 千人(対前年比 170.3%増)</p> <p>H29 年:約 482 千人(対前年比 134.6%増)</p> <p>※出典:観光庁宿泊旅行統計調査</p>
<p>実施体制</p>	<p>(実施体制の概要)</p> <p>○公益社団法人として、総会及び理事会を定期的開催している。</p> <p>○当協会の役員として、県下の各市町観光協会の長に加え、宿泊事業者や二次交通事業者、旅行業事業者の団体の長が就任している。</p> <p>○当協会の会員として、市町や市町観光協会、各種観光関連団体等が加盟しており、平成 30 年 6 月現在の会員数は 248 となっている。</p> <p>○当協会は、観光圏整備法に基づく観光圏として認定された「香川せとうちアート観光圏」のプラットフォームとしての役割も担っており、当プラットフォーム内に、県や市町、市町観光協会、宿泊施設、大学、交通機関、NPO 法人、文化や食、農業関係団体をメンバーとする観光圏戦略会議を設置し、関係者の合意形成を図っている。</p> <p>※観光圏戦略会議の構成員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光地域づくりマネージャー ・県内各市町(市町担当課長) ・県内各市町観光協会(事務局長等) ・宿泊施設(県ホテル旅館生活衛生同業組合、ゲストハウス等) ・大学 ・民間(金融機関、鉄道事業者、NPO法人) ・まち歩き団体(てくてくさぬき推進協議会) ・文化(県立ミュージアム) ・食(さぬきうまいもんプロジェクト実行委員会) ・農(かがわグリーンツーリズム推進委員会) ・四国運輸局(オブザーバー) <p>・観光圏整備法に基づく法定協議会として、県や市町、市町観光協会、関係団体で構成する「香川滞在型観光推進協議会」を設置している。</p>



2. 日本版DMO候補法人がマーケティング・マネジメントする区域

【区域の範囲】

○香川県全域:8市9町



	市町名	名称	活用方策
観光資源	高松滞在促進地区	栗林公園、史跡高松城跡 玉藻公園、屋島、仏生山の町並み、塩江温泉郷 など	○栗林公園や屋島、小豆島、琴平といった、本県を代表する老舗観光地を擁し、宿泊施設も集積している高松、小豆島、琴平を拠点として、特色ある県内の各観光地を周遊する滞在プログラムの企画促進、魅力向上を図る。 ○滞在プログラムの企画にあたっては、県内全域で盛んに行われている、地域住民が主体となり、地域の歴史、文化、自然、産業、食などを、地元が知り尽くしたガイドが案内するまち歩き「てくてくさぬき」の取り組みで蓄積してきた人材やノウハウを活用する。
	小豆島滞在促進地区	オリーブ公園、寒霞溪、銚子溪、エンジェルロード、二十四の瞳映画村、迷路のまち、醬の郷、小豆島温泉郷 など	
	琴平滞在促進地区	金刀比羅宮、こんぴら温泉郷 など	
	丸亀・坂出・宇多津滞在促進地区	丸亀城、うちの港ミュージアム、ニューレオマワールド、中津万象園、瀬戸大橋記念公園、宇多津古街 など	
	東讃交流地区	津田の松原、大窪寺、平賀源内記念館、ドルフィンセンター、讃州井筒屋敷、ランプロファイア岩脈、とらまる公園 など	
	中讃交流地区	善通寺、滝宮天満宮、うどん会館、柏原溪谷、多度津の町並み、国営讃岐まんのう公園 など	
	西讃交流地区	琴弾公園・銭形砂絵、荘内半島、本山寺、宗吉瓦窯跡史跡公園、仁尾の町並み など	

(別添) 様式 1

文化・アート資源	高松滞在促進地区	イサム・ノグチ庭園美術館、香川県庁東館、Liminal Air -core-、ジョージ ナカシマ記念館、男木島や女木島の現代アート、地中美術館、ベネッセハウス ミュージアム、ANDO MUSEUM、李禹煥美術館、家プロジェクト など	○日本一狭い県土に集積しているアートや文化資源と、近年、瀬戸内国際芸術祭の開催を契機として、国内外から高い評価を得ている現代アートを本県の強みと捉え、「香川せとうちアート」ブランドを確立させることにより、アートに深い関心を持ち、SNSや口コミなどによる情報発信力が強い女性層を主なターゲットとするとともに、高松空港に就航している国際定期航空路線を活用して、海外からも観光客を誘致する。
	小豆島滞在促進地区	豊島美術館、豊島横尾館、美井戸神社と ANGER from the bottom など	
	琴平滞在促進地区	金刀比羅宮書院、高橋由一館、鞘橋、高燈籠、旧金毘羅大芝居(金丸座) など	
	丸亀・坂出・宇多津滞在促進地区	猪熊弦一郎現代美術館、東山魁夷せとうち美術館、宇多津古街の家、本島や沙弥島の現代アート など	
	東讃交流地区	瀬戸内アートウエーブ大串、五名ギャラリー、池戸公民館 など	
	中讃交流地区	旧善通寺偕行社、善通寺宝物館、高見島の現代アート など	
	西讃交流地区	伊吹島や粟島の現代アート、豊稔池堰堤 など	
自然	○「世界の宝石」と称される瀬戸内海の島と海が織りなす穏やかな風景や、瀬戸内海へ向かって緩やかに広がる讃岐平野に、おむすび型の里山や約 1 万 4 千を超えるため池が点在する独特の景観など、本県が有する自然の魅力を全国に向けて情報発信する。		
イベント	○3 年に一度、島々を舞台に繰り広げられる現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」や、彼方に海を望む地で行われる「かがわ・山なみ芸術祭」をはじめ、毎年、継続して開催している「高松国際ピアノコンクール」や「さぬき映画祭」、「全国年明けうどん大会」、「香川丸亀国際ハーフマラソン」などの全国規模の誘客イベントを活用したプロモーションを展開する。		

【区域設定の考え方】

- 香川県の面積は全国の都道府県の中で最も狭く、全国に占める割合は 0.5%しかない。土地利用度や人口密度は高く、鉄道網(JR・琴電)が県内の大半のエリアを網羅しており、道路整備も進んでいることから、県都高松市を中心として県全域が一日生活圏を形成している。
- 県内の大部分が海岸線から 20kmの範囲内にあり、古来から、人、物、文化、情報が、海・島を介して往来し、歴史的に見ても海と陸が不可分一体として発展してきた土地柄であり、島しょ部と内陸部も含め、県全域がせとうち文化圏としての一体性を有している。
- これまでも、県全域を対象とした1泊2日、2泊3日のモデルルートを設定し、旅行エージェント等に売り込んできたところであり、実際の観光客の動きとも合致している。
- 香川県では、2泊3日以上滞り型観光を推進するため、平成22年度から、県内全域(8市9町)を圏域とする「香川せとうちアート観光圏」の整備に取り組んでおり、平成27年4月10日には、観光圏整備法に基づく観光圏として、改めて国土交通大臣の認定を受けている。
- 当協会は、この「香川せとうちアート観光圏」のプラットフォームとしての役割を担っており、今後、本区域における日本版DMOとしての役割も担っていくものである。

【観光客の実態等】

- 県外観光客数 H25:約9,177千人、H26:約9,060千人、H27:約9,203千人、H28:約9,368千人、H29:約9,464千人
 - ・どこから ①近畿 31.1% ②山陽 23.1% ③四国3県 21.5% ④関東 11.4%
 - ・観光日程 日帰り 36.6% 県内宿泊 48.2%(1.30泊)
 - ・1人当たり平均消費額 県外宿泊観光客:25,956円 県外日帰り観光客:6,268円
- 外国人延べ宿泊者数 H25:約96千人、H26:約143千人、H27:約210千人、H28:約358千人、H29:約482千人
 - ・どこから ①台湾 27.9% ②中国 17.0% ③香港 14.5% ④韓国 13.7%

(別添) 様式 1

【観光資源】

- 古より交通・交流が盛んな地域として発展してきた香川県は、昭和 9 年に日本で初めて国立公園に指定された「瀬戸内海国立公園」の中心に位置し、四国の東北部にある。北は県花・県木のオリーブで知られる小豆島をはじめ、現代アートの聖地として世界的に有名な直島など、大小 110 余の島々が「世界の宝石」と称される瀬戸内海に浮かび、魅惑の風景を醸し出している。南には讃岐山脈が連なり、北に向かって開けた讃岐平野には、おむすび型の里山や約 1 万 4 千を超えるため池が点在し、独特の景観を生み出している。
- 国の特別名勝である栗林公園、こんぴらさんの愛称で親しまれる金刀比羅宮を擁する琴平、寒霞渓やオリーブで有名な小豆島、源平合戦の古戦場でも知られる屋島などをはじめ、全国に誇れる魅力的な観光資源が多数ある。
- 猪熊弦一郎などの数多くの優れた芸術家を輩出するとともに、創作活動の場としてイサム・ノグチなどの世界的な芸術家を引き付けるなど、現代美術を中心とした優れた文化芸術を受け入れてきた個性豊かな地であり、県庁舎東館や丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、地中美術館などの世界的な建築家が設計した建築が数多く存在し、現代建築の面でも衆目を集めている。
- 平成 22 年から 3 年ごとに開催されている瀬戸内国際芸術祭は、「海の復権」をテーマに、世界中から参加したアーティストが、島に暮らす人々と交わりながら作品を作り出し、瀬戸内海の美しい自然と、現代アートの聖地として知られる直島をはじめ瀬戸内の島々に広がるアートが、国内外から高い注目を集めている。
- 平成 27 年 4 月に四国 4 県と関係 57 市町村の共同申請で日本遺産として初認定された「四国遍路」は、時代を超えて受け継がれてきた世界に誇る文化遺産である。
- 国の認定を受けた「香川せとうちアート観光圏」では、瀬戸内海という地域資源と、県内に集積しているアートや文化遺産を活用した「滞在交流型観光」に取り組んでいる。
- 2016 年主要国首脳会議(伊勢志摩サミット)に合わせて、「G7 情報通信大臣会合」が四国で初めて県都高松市で開催され、観光振興や地域経済への波及など、地域の活性化が図られた。
- 毎年、高松国際ピアノコンクール、さぬき映画祭、全国年明けうどん大会、香川丸亀国際ハーフマラソンなどのイベントも開催されており、地域密着型スポーツチームとして、カマタマーレ讃岐(サッカー)、香川オリーブガイナーズ(野球)、高松ファイブアローズ(バスケットボール)、香川アイスフェローズ(アイスホッケー)がある。
- 県内の有名うどん店に多くの観光客が訪れるなど、うどんブームは根強く、民間調査会社による地域ブランド力調査において、名産品部門で全国 1 位となるなど、讃岐うどんは高い認知度を誇っている。また、瀬戸の地魚や骨付き鳥なども、「香川の食」として注目されている。

【宿泊施設】

○「香川せとうちアート観光圏」整備計画に基づく滞在促進地区の状況

地域・地区	施設数	収容人数(約・人)	備考
主たる滞在促進地区			
①高松	163	10,000	
内 高松市中心市街地	(90)	(7,900)	
内 塩江	(10)	(1,000)	
内 直島	(61)	(1,000)	
②小豆島	60	5,400	
③琴平	18	2,800	
滞在促進地区			
①丸亀市・坂出市・宇多津	38	4,900	
内 丸亀	(13)	(2,600)	
内 坂出	(19)	(1,800)	
内 宇多津	(6)	(500)	

(別添) 様式 1

【利便性】	
○区域までの交通	
関東方面から	発地→(手段・所要時間)→経由地→(手段・所要時間)→高松
JRで	東京→(のぞみ約3時間 15分)→岡山→(マリンライナー-約1時間)→高松
飛行機で	羽田→(約1時間 20分)→高松 成田→(約1時間 30分)→高松
高速バスで	東京→(約 10 時間)→高松
関西方面から	発地→(手段・所要時間)→経由地→(手段・所要時間)→高松
JRで	大阪→(のぞみ約 45 分)→岡山→(マリンライナー-約1時間)→高松
高速バスで	大阪→(約3時間 30分)→高松
フェリーで	神戸→(ジャンボフェリー約4時間)→高松
○域内交通	
＜電車＞	
<ul style="list-style-type: none"> ・岡山－高松間には、本州と四国との間を唯一、列車で結ぶ瀬戸大橋線が走っている。 ・JR四国の高德線、予讃線、土讃線の各普通・特急列車が運行され、琴平電気鉄道とともに、京都・高松市と県内各地を結んでいる。 	
＜高速道路＞	
<ul style="list-style-type: none"> ・高松自動車道によって徳島県、愛媛県と、高知自動車道によって高知県とつながっている。 ・瀬戸中央自動車道によって、本州・岡山県につながっている。 	
＜船・フェリー＞	
<ul style="list-style-type: none"> ・高松港をマザーポートとして、瀬戸内海に浮かぶ小豆島や直島等の島々への船の航路があり、その他、生活路線としての離島航路が、数多く運航されている。 	
【外国人観光客への対応】	
○国際定期路線	
<ul style="list-style-type: none"> ・台北線 : チャイナエアライン 週 6 便(日・月・水・木・金・土) ・上海線 : 春秋航空 週 5 便(日・月・火・木・金) ・ソウル線: エアソウル 週 7 便(日・月・火・水・金・土・日) ・香港線 : 香港エクスプレス 週 4 便(日・月・水・金) 	
○事業概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・高松空港と国際定期路線が就航している上海、ソウル、台北、香港及び台北線を利用して同日乗り継ぎが可能なタイなどを主たるターゲットとして、現地でのキャンペーンの実施や旅行展示会への出展、旅行エージェントやマスコミの招聘、外国語パンフレットやノベルティグッズの作成・配布等を実施している。 ・現地旅行エージェントに対し、本県へのツアー造成・販促支援を行っている。 	
○外国人観光客の状況(出典:観光庁宿泊旅行統計調査)	
<ul style="list-style-type: none"> ・外国人延宿泊者数 …H25年:約 96 千人、H26年:約 143 千人、H27年:約 210 千人、H28年:約 358 千人、H29年:約 482 千人 ・国・地域別 // …H29 実績(従業員 10 人以上の宿泊施設) ①台湾 108,660 人 ②中国 66,120 人 ③香港 56,550 人 ④韓国 53,370 人 	
○環境整備	
<ul style="list-style-type: none"> ・本協会が、陸と海の玄関口・サンポート高松のJR高松駅構内に、日本政府観光局の JNTO 外国人観光案内所(カテゴリー3)を設置している。 ・本協会では、多言語対応(英語、中国語(簡体字、繁体字)、韓国語、タイ語)した Web サイトを利用した一元的な情報発信を行っており、平成 29 年 7 月には、県内の観光案内所や宿泊・観光施設、飲食店などを対象に多言語の通訳・翻訳サービスを行う香川県多言語コールセンターを開設した。 ・平成 26 年 7 月から、無料公衆無線LAN「かがわ WiFi」のサービス提供を開始し、順次、スポット数の拡大を図っている。 ・栗林公園東門横の「かがわ物産館・栗林庵」等、免税店が整備されている。 	

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
香川県観光客動態調査	香川県を訪れた観光客入込数及び直接消費額を推計し、今後の観光施策の参考とする。	①県外観光客入込数 ・交通機関(航空機、JR、フェリー)の下り便及び高速道路の利用者数をもとに推計 ②宿泊有無別観光客入込数 ・県内(延べ・実)宿泊客数を観光庁の宿泊旅行統計調査結果をもとに算出 ③県内での観光消費金額 ・県内宿泊客数及び「香川県観光地点パラメータ調査」の結果から算出した一人当たりの平均観光消費金額をもとに算出 ④主要観光地入込客数 ・県内主要観光地(栗林公園、屋島、琴平、小豆島)からの報告
香川県観光実態調査	香川県を訪れた観光客の実態を把握し、現状と課題を分析する。 (調査項目) 性別、年齢、居住地、選択理由、香川の魅力、情報源、満足度、再来訪意向、期待や要望 など	香川独自の「アンケート調査」として実施 (調査方法) 対面聞き取り調査 (調査対象) 16歳以上の男女個人 (調査地点) 県内主要観光地 10 か所 (調査回数) 3回
香川県観光地点パラメータ調査	香川県を訪れた観光客の実態を把握し、現状と課題を分析する。 (調査項目) 性別、年齢、居住地、観光日程、宿泊施設数、旅行目的、同伴者、訪問回数、立ち寄り観光地、利用交通機関、消費金額 など	観光庁の「観光入込客統計に関する共通基準」に基づき実施 (調査方法) 対面聞き取り調査 (調査対象) 16歳以上の男女個人 (調査地点) 県内主要観光地 10 か所 (調査回数) 4回
観光圏・顧客満足度調査	全国の認定観光圏が同一の調査を実施し、観光圏の評価指標の一つとして活用する。 (調査項目) 性別、年齢、居住地、来訪回数、同伴者、利用交通機関、滞在時間、情報源、動機、楽しみにしていたこと、体験プログラム・ガイドツアー等の参加、消費金額、満足度、紹介意向 など	観光庁の推奨調査票に準拠した項目に基づき実施 (調査方法) 宿泊施設での配布・郵送回収 (調査対象) 宿泊客 (調査地点) 県内宿泊施設 (調査回数) 夏と冬の2季
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度を把握し、プロモーション等の具体的な誘客施策の参考とする。	Google Analytics(グーグルアナリティクス)により、月ごとのアクセス数(セッション数、ユーザー数、ページ数)を分析

4. 戦略

(1) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み(Strengths) ・瀬戸内海など美しい自然 ・狭い県土に集積するアート ・伝統に育まれた和の文化 ・“瀬戸芸”ブランド ・高速道路網の充実 ・国際定期航空路線の充実 ・まち歩きプログラムの実績	弱み(Weaknesses) ・うどんのイメージが強すぎる ・県下の各地域が相互に連携する基盤が弱い ・2次交通網が十分とはいえない ・外国人観光客の受入環境が十分とはいえない。
外部環境	機会(Opportunities) ・内需回復による旅行需要の増大 ・円安等による外国人観光客の増加 ・台風など自然災害の少なさ	脅威(Threats) ・価値観の多様化による観光と競合する選択肢の増加 ・観光誘客での地域間競争 ・県人口の減少・高齢化

(2) ターゲット

○第1ターゲット層 ・首都圏を中心とした、アートに深い関心を持ち、SNSや口コミなどによる情報発信力が強い女性層
○選定の理由 ・平成 28 年度香川県観光地点パラメータ調査によると、本県を訪れた観光客の居住地は、近畿(29.2%)、香川を除く四国(23.4%)、山陽(22.9%)、関東(11.3%)となっているものの、高松空港から羽田及び成田空港へは1日14便の国内定期路線が運航されており、2016 年に開催された瀬戸内国際芸術祭でのアンケート調査では、関東地域から訪れた来場者は 15.8%と、四国地域からに次いで多くなっていることから、ターゲットを、アートに深い関心を持つ首都圏を中心とした層とした。 ・同パラメータ調査によると、本県を訪れた観光客の性別は、女性(54.5%)が男性(45.5%)を約1割上回っており、同アンケート調査では、来場者の約7割(67.2%)が女性という結果も出ている。また、女性は、楽しかったことや感動したことなどを自分以外の人に伝える傾向が、男性に比べると高いと言われており、民間会社の調査によると、スマートフォンで多く利用されているSNSアプリの利用率は、女性の方が高いという結果も出ていることから、ターゲットを、アートに深い関心を持ち、SNSや口コミなどによる情報発信力が高い女性層と設定した。
○取組方針 ・アートや島旅など本県の魅力や楽しみ方等をPRする映像等を制作し、Web 配信や大都市圏での交通広告等を行うプロモーションを展開している。 ・観光地や伝統的町並み、芸術・文化資源や産業(農林水産業や製造業など)といった地域資源を活かした個人旅行者向けの周遊型・体験型の旅行商品(滞在プログラム)を造成し、着地型商品を販売することとしている。
○ターゲット層 ・高松空港からの国際定期路線が就航している、韓国、中国、台湾、香港を中心とした外国人観光客
○選定の理由 ・観光庁宿泊旅行統計調査によると、平成 28 年に本県を訪れた外国人観光客の国・地域別の宿泊者数は、台湾(26.5%)、中国(15.3%)、香港(12.1%)、韓国(10.7%)で全体の6割以上(64.5%)を占めていることから、ターゲットを、韓国、中国、台湾、香港を中心とした外国人観光客に設定した。
○取組方針 ・現地でのキャンペーンの実施や旅行展示会への出展、旅行エージェントやマスコミの招聘、外国語パンフレットやノベルティグッズの作成・配布等を実施している。 ・現地旅行エージェントに対し、本県へのツアー造成・販促支援を行っている。

(3) コンセプト

①コンセプト	「香川せとうちアート観光圏」のブランドコンセプト 瀬戸の恵み さぬきの旅 ～せと、人、アートで おもてなし～
②コンセプト の考え方	<p>“世界の宝石”と讃えられた瀬戸内海の島と海が織りなす穏やかな風景。その瀬戸内海へ向かって緩やかに広がる讃岐平野には、ぽっことした“おむすび山”がまるで波間に浮かぶ小島のように点在し、のどやかな情景をさらに演出する。</p> <p>こうした風土に生まれながら、人々はこの地で和の文化を培ってきた。その伝統美は、江戸文化の粋を集めた栗林公園の大名庭園や、金刀比羅宮、善通寺に代表される寺社仏閣の建物や所蔵品に、今も垣間見ることができる。</p> <p>瀬戸内生まれの伝統文化は、これら歴史的文物だけでなく、漆器や盆栽、民芸品などの工芸技術や、郷土料理を支える和食の基本調味料“さしすせそ”の製法にも見られ、この地に住む人々の普段の暮らしの中にしっかりと溶け込んでいる。</p> <p>瀬戸内海を揺りかごとして色どり豊かに育まれてきた文化に、近年、アートという新たな色彩が加わった。</p> <p>島々を舞台に繰り広げられる現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」や、彼方に海を望む地で行われる「山なみ芸術祭」では、伝統文化との融合や作品が置かれる場所の特性が強く意識され、また、訪れる観光客、アーティストや地元の人たちとの交流も重要なテーマとなっている。</p> <p>瀬戸内海の恵みの中で培われた自然、文化、食などが豊かな讃岐での、ゆったりとした、心安らぐ旅を提供する。そして、この地で守り受け継がれてきた技と伝統美に、新たに加わった上質の現代アートなど、様々なアートとふれあい、瀬戸内に広がる明媚な景色や文化、食を五感で楽しみ、ここに暮らす人々とふれあう。そんな「せと、人、アート」にふれる旅を求めて来訪されたお客様を、ゆったりと流れる時間の中で、遍路文化で育まれてきた“おせったいの心”でおもてなしする。</p>

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年 4 月に、瀬戸内海という地域資源と、県内に集積しているアートや文化資源を本県独自のブランドとする「香川せとうちアート観光圏」が、観光圏整備法に基づく観光圏として、国土交通大臣の認定を受け、平成 27 年度には、観光庁から認定された観光地域づくりマネージャーを中心に、観光圏戦略会議やワーキンググループなどでの議論を経て、地域独自の価値やブランド・コンセプト、ブランド・コンセプトを体感する滞在プログラム、推進体制、ロードマップ等を明記した「香川せとうちアート観光圏 観光地域ブランド戦略」を策定し、観光圏整備法に基づく法定協議会である「香川滞在型観光推進協議会」の承認を受けたうえで観光庁に提出している。 ・28 年度においては、地域の関連事業者とのコミュニケーションの場を設けるため、当協会内に設置した観光圏戦略会議を 5 回、ワーキンググループ(農商等他産業連携WG、滞在プログラム造成WG、観光案内機能向上WG、インバウンド受入態勢WG、ブランド価値総括WG、西讃地区WG、中讃地区WG)を延べ 33 回開催した。 ・29 年度においては、観光圏戦略会議を 5 回、観光地域づくりマネージャー会議を 3 回、ワーキンググループ(着地型商品造成WG、他産業連携商品造成WG、夜型商品造成WG、インバウンド・コンテンツWG、宿泊施設魅力向上WG、民間創意活用WG、西讃地区WG、中讃地区WG、東讃地区WG)を延べ 23 回開催した。 ・30 年度においても、観光圏戦略会議やワーキンググループ(着地型商品造成WG、夜型観光推進WG、FIT 推進WG、交通観光連携WG、農泊推進WG)を延べ 20 回程度開催する。 ・数値目標(KPI)に関しては、平成 27 年 12 月に香川県が策定した「新・せとうち田園都市創造計画」(計画期間:28 年度～32 年度)と整合性が取れている。
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド客が安心して宿泊施設を選択できるよう、宿泊施設の観光品質認証制度「SAKURA QUALITY」を、平成 29 年度から導入している。 ・平成 28 年度から本格的に、国の観光地域ブランド確立支援事業補助金も活用しながら、様々な観光圏事業に取り組んでおり、29 年 4 月に設置した「PDCA 委員会」において、観光圏事業やワーキンググループ活動のPDCAを行っている。なお、KPIについては、取組内容や事業内容に応じて見直しを図ることとしており、平成 29 年 3 月には、来訪者満足度と延べ宿泊者数のKPIを、観光圏整備計画策定後初めて見直した。 ・全県的なおもてなし力の向上を図るため、本協会を含む県内 117 の団体等で構成する「観光香川おもてなし運動県民会議」を平成 27 年 10 月に設立している。
一元的な情報発信・プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域内の官民設置の観光案内所において、広域の圏域内外の観光情報を観光客にワンストップで提供できるような体制の整備を進めている。 ・多言語対応(英語、中国語(簡体字、繁体字)、韓国語、タイ語)した Web サイトや Facebook を利用した一元的な情報発信を行うとともに、県出身の俳優・要潤氏などを活用したプロモーションを実施している。 ・27 年度からは、「自分だけの特別を見つける島旅」をテーマに、瀬戸内の多島美を楽しむ映像“かがわ極上休日”を制作し、ウェブ配信を行うとともに、県出身の女優・木内晶子氏による PR 冊子を作成し、県外メディアや旅行会社等に配布している。 ・全国で唯一隣接する「香川せとうちアート観光圏」と「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」が連携し、情報発信や旅行者誘致などを行っている。

6. KPI (実績・目標)**(1) 必須KPI**

	単位		26年	27年	28年	29年	30年	31年
● 県外宿泊観光客 観光消費金額	円	(目標)	—	28,200	29,000	29,900	30,700	31,600
		(実績)	27,411	26,632	23,449	25,956	—	—
● 延べ宿泊者数	万人	(目標)	—	356 (21)	368 (29)	379 (36)	391 (44)	402 (51)
		(実績)	346 (14)	408 (21)	378 (36)	376 (48)	—	—
● 来訪者満足度	%	(目標)	—	11	12	13	14	15
		(実績)	—	11.3	21.0	18.3	—	—
● リピーター率	%	(目標)	—	79	80	81	82	83
		(実績)	77.7	76.5	78.6	77.5	—	—

※延べ宿泊者数の内、() 内は外国人に関するもの。

● 年次及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

目標年次については、観光圏整備法に基づき策定した観光圏整備計画の計画期間にあわせて設定。目標数値については、【設定にあたっての考え方】に基づき設定。なお、香川県の総合計画「新・せとうち田園都市創造計画」に掲載されている指標は、同計画と整合性を取りながら設定。

【設定にあたっての考え方】

- 県外宿泊観光客観光消費金額: 26年から31年まで対前年比2.9%ずつ増となるよう目標を設定。百円未満四捨五入。
- 延べ宿泊者数: 29年3月に見直した香川県の総合計画「新・せとうち田園都市創造計画」(計画期間: 28年度～32年度)に記載されている目標値を参考に算出。
- 来訪者満足度: 来訪者の満足度は、7段階評価の内「大変満足した」と回答した方の割合で、27年から31年まで年1%ずつ増えるよう目標を設定。
- リピーター率: 26年から31年まで年1%ずつ増えるよう目標を設定

(2) その他の目標

	単位		26年	27年	28年	29年	30年	31年
● 平均宿泊 日数	日	(目標)	1.25	1.29	1.32	1.36	1.40	1.44
		(実績)	1.25	1.24	1.14	1.13	—	—
● まち歩き参 加者数	人	(目標)	8,500	8,800	9,100	9,400	9,700	10,000
		(実績)	8,395	8,199	14,710	6,372	—	—
● 圏域外観 光客数	万人	(目標)	906	918	930	942	954	966
		(実績)	906	920	937	946	—	—

● 項目及び年次・目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

項目については、観光圏整備法に基づき策定した観光圏整備計画の目標値を基に設定。年次・目標数値については、前述のとおり。

【設定にあたっての考え方】

- 平均宿泊日数: 26年から31年まで対前年比2.9%ずつ増となるよう目標を設定。
- まち歩き参加者数: 26年から31年まで年300人ずつ増えるよう目標を設定。
- 圏域外観光客数: 27年12月に策定した香川県の総合計画「新・せとうち田園都市創造計画」(計画期間: 28年度～32年度)に記載されている目標値を参考に算出。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

(1) 収入

年度	総収入 (円)	内訳
平成 28 年度	916,445,114(円)	別紙1「正味財産増減計算書内訳書」のとおり 【受取会費】 : 8,050,000 円 【事業収益】 : 8,157,524 円 【使用料収益】 : 1,004,340 円 【受託収益】 : 39,279,038 円 【受取補助金等】 : 852,806,681 円 【受取負担金】 : 5,652,705 円 【雑収益】 : 1,494,826 円
平成 29 年度	1,023,167,604(円)	【受取会費】 : 8,270,000 円 【事業収益】 : 712,000 円 【使用料収益】 : 1,293,860 円 【受託収益】 : 50,775,990 円 【受取補助金等】 : 944,108,414 円 【受取負担金】 : 16,254,187 円 【雑収益】 : 1,753,053 円
平成 30 年度	1,016,097,000(円)	別紙2「正味財産増減書予算書」のとおり 【受取会費】 : 8,500,000 円 【事業収益】 : 6,570,000 円 【使用料収益】 : 1,300,000 円 【手数料収益】 : 200,000 円 【受託収益】 : 55,809,000 円 【受取補助金等】 : 934,782,000 円 【受取負担金】 : 7,450,000 円 【雑収益】 : 1,486,000 円
平成 31 年度	1,016,097,000(円)	【受取会費】 : 8,500,000 円 【事業収益】 : 6,570,000 円 【使用料収益】 : 1,300,000 円 【手数料収益】 : 200,000 円 【受託収益】 : 55,809,000 円 【受取補助金等】 : 934,782,000 円 【受取負担金】 : 7,450,000 円 【雑収益】 : 1,486,000 円
平成 32 年度	1,016,097,000(円)	【受取会費】 : 8,500,000 円 【事業収益】 : 6,570,000 円 【使用料収益】 : 1,300,000 円 【手数料収益】 : 200,000 円 【受託収益】 : 55,809,000 円 【受取補助金等】 : 934,782,000 円 【受取負担金】 : 7,450,000 円 【雑収益】 : 1,486,000 円

(別添) 様式 1

(2) 支出

年度	総支出	内訳
平成 28 年度	923,509,718(円)	別紙1「正味財産増減計算書内訳書」のとおり 【観光情報提供事業】 : 95,473,925 円 【観光客誘致宣伝事業】 : 729,829,354 円 【受入態勢整備事業】 : 96,478,862 円 【その他】 : 1,727,577 円
平成 29 年度	1,028,832,227 (円)	別紙3「収支計算書」のとおり 【観光情報発信事業】 : 83,163,239 円 【観光客誘致事業】 : 800,748,343 円 【受入態勢整備事業】 : 120,461,288 円 【管理費】 : 24,459,357 円
平成 30 年度	1,021,348,000 (円)	別紙2「正味財産増減予算書」のとおり 【公益目的事業】 : 1,015,036,000 円 【収益事業】 : 4,200,000 円 【その他】 : 2,112,000 円
平成 31 年度	1,021,348,000 (円)	【公益目的事業】 : 1,015,036,000 円 【収益事業】 : 4,200,000 円 【その他】 : 2,112,000 円
平成 32 年度	1,021,348,000 (円)	【公益目的事業】 : 1,015,036,000 円 【収益事業】 : 4,200,000 円 【その他】 : 2,112,000 円

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

- ・会員数の増による自主財源の確保。
- ・県等からの補助金・受託事業の増による基盤の確立。
- ・収益事業として、新たに着地型旅行商品の造成・販売等を実施。

8. 日本版DMO形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

- ・香川県は、公益社団法人香川県観光協会を当県の「日本版DMO」として登録したいので、同法人とともに申請します。

9. 記入担当者連絡先

担当者氏名	加藤 敬
担当部署名(役職)	香川県観光協会(事務局長)
所在地	高松市番町4-1-10
電話番号(直通)	087-832-3377
FAX 番号	087-861-4151
E-mail	kato@21kagawa.com

10. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	香川県
担当者氏名	安藤 和昌 黒川 敦生
担当部署名 (役職)	交流推進部観光振興課 (課長補佐・副主幹)
所在地	高松市番町4-1-10
電話番号 (直通)	087-832-3360
FAX 番号	087-835-5210
E-mail	xb7533@pref.kagawa.lg.jp gw0565@pref.kagawa.lg.jp

【区域】香川県全域(8市9町)

【設立時期】昭和45年9月21日(平成25年4月1日 公益社団法人移行)

【代表者】会長 三矢昌洋

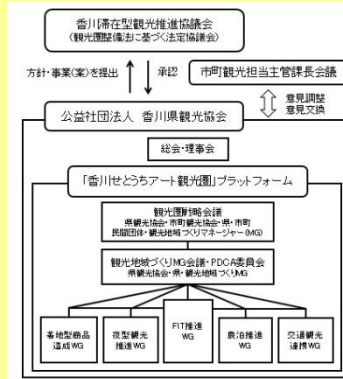
【マーケティング責任者】専務理事 内田裕幸

【職員数】10人(専従役員、専従職員)

【連携する主な事業者】各市町観光協会等、

わがかがわ観光推進協議会、てくてくさぬき推進協議会、
香川県ホテル旅館生活衛生同業組合、さぬき瀬戸塾、(株)百十四銀行、
(一社)香川県婦人団体連絡協議会、(一社)かがわ県産品振興機構、
(一社)全国旅行業協会香川県支部、
(一社)日本旅行業協会中国四国支部香川地区委員会、
四国旅客鉄道(株)、高松琴平電気鉄道(株)、香川県旅客船協会 など

(表:実施体制)



(表:KPI(実績・目標))※()内は外国人に関するもの

	26年 (実績)	27年 (実績)	28年 (実績)	29年 (実績)	30年 (目標)
県外宿泊観光客 観光消費金額 (円)	27,411	26,632	23,449	25,956	30,700
延べ宿泊者数 (万人)	346 (14)	408 (21)	378 (36)	376 (48)	391 (44)
来訪者満足度 (%)	—	11.3	21.0	18.3	14
リピーター率 (%)	77.7	76.5	78.6	77.5	82

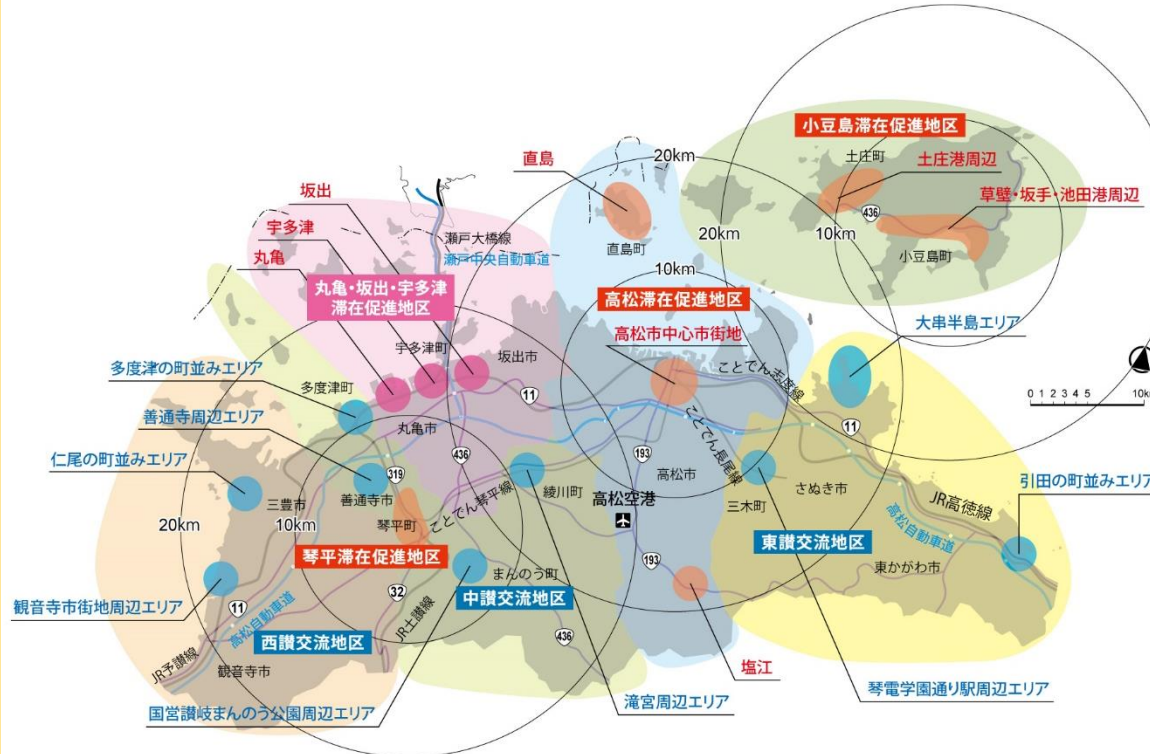
観光資源に関する取組

○栗林公園や屋島、小豆島、琴平といった、本県を代表する老舗観光地を擁し、宿泊施設も集積している高松、小豆島、琴平を拠点として、特色ある県内の各観光地を周遊する滞在プログラムの企画促進、魅力向上を図る。

○滞在プログラムの企画にあたっては、県内全域で盛んに行われている、地域住民が主体となり、地域の歴史、文化、自然、産業、食などを、地元が知り尽くしたガイドが案内するまち歩き「てくてくさぬき」の取組みで蓄積してきた人材やノウハウを活用する。

自然に関する取組

○「世界の宝石」と称される瀬戸内海の島と海が織りなす穏やかな風景や、瀬戸内海へ向かって緩やかに広がる讃岐平野に、おむすび型の里山や約1万4千を超えるため池が点在する独特の景観など、本県が有する自然の魅力を全国に向けて情報発信する。



文化・アート資源に関する取組

○日本一狭い県土に集積しているアートや文化資源と、近年、瀬戸内国際芸術祭の開催を契機として、国内外から高い評価を得ている現代アートを本県の強みと捉え、「香川せとうちアート」ブランドを確立させることにより、アートに深い関心を持ち、SNSや口コミなどによる情報発信力が高い女性層を主なターゲットとするともに、高松空港に就航している国際定期航空路線を活用して、海外からも観光客を誘致する。

イベントに関する取組

○3年に一度、島々を舞台に繰り広げられる現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」や、彼方に海を望む地で行われる「かがわ・山なみ芸術祭」をはじめ、毎年、継続して開催している「高松国際ピアノコンクール」や「さぬき映画祭」、「全国年明けうどん大会」、「香川丸亀国際ハーフマラソン」などの全国規模の誘客イベントを活用したプロモーションを展開する。